口は健康のもと Vol.８３　口の中の「がん」その４

治療法、手術など３種類

口腔がんの治療では、初めにどんながんであるかを病理組織学的検査で調べます。これは治療方針を決めるためにとても重要なことです。がんの性質や特性、発生母体、大きさ、深さ、成熟度などから最も適切な治療法を選択します。

一般的にがんには手術、抗がん剤、放射線の３種類の治療法があります。

口腔がんの多くは手術で切除する方法が選択されます。特に早期がんでは２～３cmの大きさで切除でき、話すことや食べることに全く影響がなく、完治が望めます。

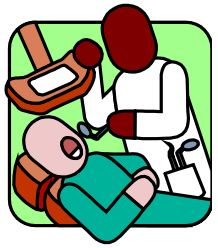
一方、進行がんの場合は大変です。すべてのがんを取り除くために、深く、大きく切除する必要があり、あごの骨を削り、頬や唇を失ってしまうケースもあります。

さらに手術で変形した顔や口の形を整えるために、手や胸の皮膚を移植し、金属プレートであごをつくることがあります。

転移や再発を防止するために、放射線療法や抗がん剤治療を行います。こうした治療になると、入院が４～５か月におよぶ場合もあります。

口腔がんは小さな段階で早く発見できれば、口の形態や機能を失うことなく完全に治すことができます。

奥羽大学歯学部附属病院では口腔外科の相談窓口を設けています。少しでも気になることがございましたら、気軽にご相談下さい。



奥羽大学歯学部附属病院
口腔外科　教授　高　田　　訓